〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

文京学院

平成 29 年（2017 年）
10月1日
第 733 号
発行
学校法人文京学園
http://bgu.ac.jp

大学院

「日本臨床検査学教育学会学術大会」で「優秀発表賞」受賞！

大学院保健医療科学研究科1年の谷古宇利樹さん（生体分子機能情報解析学研究室）が8月24日、埼玉県立大学（埼玉県越谷市）で開催された「第12回日本臨床検査学教育学会学術大会」において「優秀発表賞」を受賞しました。

受賞演題は「マウス抗ヒトリン酸化蛋白質モノクローナル抗体を用いた腫瘍特異抗原の同定」。

受賞を喜ぶ谷古宇さん

谷古宇さんは、未知腫瘍組織の分類に有用なマウス抗ヒトリン酸化蛋白質モノクローナル抗体の認識抗原を質量分析法により腫瘍関連抗原であるTATA-element modulatory factor 1と同定し、同分子が腫瘍化に関連する分子であることを発表しました。共同演者は、同研究科の小松博義教授と元藤陽子助教。

同賞受賞について、谷古宇さんは次のように感謝と抱負を述べました。

「この度の受賞、大変光栄に思っております。受賞に際して、研究を御指導くださいました生体分子機能情報解析学研究室の小松博義教授、元藤陽子助教に深謝するとともに、献身的に研究にご協力いただいた本学保健医療科学研究科卒業生・綾部智人先輩に御礼申し上げます。また、今後はこの受賞を励みにさらに研究活動に打ち込み、データを多角的に分析する力や論理的思考力を身につけ、医療従事者として活躍できるよう精進していきたいと考えております」

大学

本学が「London Design Festival2017」に出展

9月16日から23日まで、ロンドンで「London Design Festival2017」が開かれました。本学はロンドン芸術大学（以下UAL）と連携教育プログラムを実施。その成果をロンドンの地で発表する場として、UAL側より会場の一つであるUAL内での出展打診があり、共同出展となりました。本学とUALが協働で進めてきた「伝統工芸教育プログラム」を、「TRANSFORM」と題して以下のように展示発表しました。また、9月21日にはPrivate Viewを開催し、島田昌和理事長・教授が挨拶しました。

★UALと本学の「2016年度伝統工芸教育プログラム」成果報告
★桐生織物（群馬県桐生市）桐生和紙織、裂織の着物展示
★岩槻人形（埼玉県さいたま市）衣装着七段15人揃雛、木目込み雛人形の展示
★「きもの　やまと」協力による現代的な着物の展示・無料試着体験

どのコーナーも、日本の伝統文化について熱心に見学する姿が見られました。

着物姿で挨拶する島田理事長

Private Viewの様子

大学

根津神社例大祭 留学生が神輿担ぎ

雨にも負けず元気に神輿担ぎ

江戸三大祭の一つとして、300年以上の歴史がある根津神社例大祭が9月16・17日に開催され、近隣町会の神輿が出陣。今年も、本学の国際連携教育プログラムに参加している留学生20名が、根津宮本町会の神輿を担ぎました。同町会は、地元住民と留学生との協力関係によって町会単独で神輿担ぎが成立し、担ぎ手不足の解消に貢献しています。

今年は、College of St. Benedict（CSB）/ St. John's University（SJU）のHinton学長が、昨年来校の際に半纏新調に賛同し、CSB／SJUの費用負担により両大学名入りの半纏が完成しました。

17日は激しい雨で、留学生はズブ濡れになりながらも元気な掛け声で根津神社内外を練り歩きました。

CSB学長・Dr. Mary Dana Hinton（左）と、SJU学長・Dr. Michael Hemesath（右）に囲まれて新しい半纏を披露

高校

NASA研究者が特別授業

9月20日、米航空宇宙局（NASA）の天文物理部門を統括するポール・ハーツ博士と、惑星科学部門の最高責任者を務めるジム・グリーン博士が、本校で特別授業を行いました。

理数クラス2年生76名、3年生希望者14名の合計90名が「基本的に英語で学ぶグループ」と「通訳を介して学ぶグループ」に分かれて受講。

スーパーサイエンスハイスクールに指定されている本校の生徒にとっては、宇宙研究の最先端情報を得る絶好の機会。両博士の授業に真剣に聴き入り、宇宙への想いを熱くしました。

ハーツ博士の授業の様子

笑顔で生徒に接するグリーン博士

Green Spirits

SSHを通じてNASAの研究に触れる

SSH教育センター長
教諭
椎名智之

本校は、平成24年に文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定校に認定され、理数教育の新規カリキュラム開発や国際的研究交流に寄与してきました。

平成27年には、生徒一人ひとりが将来のキャリア構築を見出しやすいように3コース制を導入、教育基盤そのものに理数キャリアコースが設置され、国際教養・スポーツ科学とともに新時代の教育を展開しています。理数キャリアコースでは、未来の国際的女性科学者育成を目指す教育を行い、動的な教育を展開しています。近年注目のアクティブラーニングによる学習法も、SSH初年度より文京アクティブラーニングスタジオを新設し、生徒が生き生きと自分の意見を述べながら学べる環境も整備しました。現在は、2020年の入試改革を含む教育改革の新たな波に全校挙げて取り組んでいます。

折しも本年のSSH事業では、NASAの要職に就くポール・ハーツ博士とジム・グリーン博士をお招きし、宇宙に関する最新の先端科学講座を開講することができました。

この日は、90名の生徒が2グループに分かれて、新設のアクティブラーニングスタジオ2を含む2教室で、授業2時間分にあたる集中講義を受けました。話題は、最新のデータを送り続けながら太陽系の果てを目指して飛行中の探査衛星「ニューホライズンズ」の成果などを交えたもので、「広い宇宙の中には太陽系の惑星以外にも惑星は存在するか」「地球以外に生物がいる可能性がある惑星があるか」など、興味深い内容でした。太陽系以外の惑星を研究するには、地球の望遠鏡では大気の揺らぎのため正確な測定ができません。そこで宇宙望遠鏡の利用が必須です。来年度には、NASAから二つの宇宙望遠鏡が宇宙に打ち上げられる予定であることも知ることができました。もしかしたら、今後研究が進めば、新たな天体の発見や地球以外での生物の発見というビッグニュースが飛び出すかもしれません。

生徒からは「なぜ宇宙について研究しようと思ったか」「一番興奮したことは何か」などの質問が出ました。

今回の経験を経て、「自分も将来宇宙について深く知りたい」と考える生徒が増えたことは間違いありません。

中高 特集 「文女祭」晴れやかに

中高「文女祭」が9月30日・10月1日に行われ、2日間で3559名が駒込キャンパスに来校しました。来校者は、パンフレットを片手に「高校クラス研究展示」「高2クラス・部活模擬店」「中学展示」「部活展示」「各部演技」などを堪能しました。

受験生案内プロジェクトの生徒たちの案内を受けた親子からは「生徒たちが明るく親切。校舎がとても綺麗で、図書館も素晴らしい。感心しました」とうれしい感想をいただきました。

今年のスローガンは「百花繚乱。「生徒の個性という花が咲き乱れますように」という思いが込められています。

まずは生徒会本部。各種インフォメーション、なぞなぞラリーのコールを担当の他、経営・模擬店プロジェクトと協同して、「東北一熊本復興支援販売会」を実施。宮城県石巻市と熊本県を中心とした食品生産者の商品を販売しました。利益は全て一般社団法人希望の環を通じて被災地に寄付されます。

併設大学の学生と大学院生による「アレーメンズ」も、チャリティグッズを販売。売り上げは東日本大震災支援団体へ全額寄付されます。

体育祭プロジェクト、校庭備品プロジェクト、ホールプロジェクトの生徒たちも、それぞれ大活躍！

カフェテリアでは、文女祭特別メニューが提供され、多くの来場者が一休み。

中高同窓会「鏡友会」では、懐かしいアルバム、お茶とお菓子を準備して、役員が温かくおもてなしました。

後援会文化部主催のバザーは、今年も保護者に協力いただき大盛況でした。

入試相談室には、本校に興味を持つ沢山の親子の姿がありました。

おもてなし上手な鏡友会メンバー

被災地を想い、現地商品を販売

中高コース別研究展示

「グローバル・スタディーズ／国際教養」「アドバンスト・サイエンス／理数キャリア」「スポーツ・サイエンス／スポーツ科学」の3コース制による総合学習での学びをポスターセッションにて披露しました。どのプレゼンテーションもそれぞれの専門性を活かしており、来校者からは「よく調べ、工夫してまとめていますね！」と驚きの声が上がりました。

中学美術科と高校美術選択者による作品はとても美しく、一点一点丁寧に鑑賞する来校者の姿がありました。

研究展示テーマ ★『国際教養』1楓＝エネルギーと食料に関する国際問題、1檜＝世界の郷土料理について、国際・ESD・自立・共生★『理数キャリア』1梅and1萩リケジョの祭典＝人工イクラ、菌体の融合、外反母趾色々★『スポーツ科学』1杉＝スポーツに関する他国との違いや栄養素など★『SGH教育活動紹介、フェアトレードコーヒーの販売など★『高2』企業職業研究★『グローバルスタディーズ』中1＝総合学習中2＝世界遺産、中3＝百人一首の中から京都・奈良を舞台にした和歌を英語で発表★『アドバンスト・サイエンス』中1＝総合学習・中2＝ウッドテッキ菜園・中3＝関西修学旅行をサイエンスの視点で★『スポーツ・サイエンス』中1＝総合学習・中2＝心拍数とスポーツ・中3＝リフティングについて★『中学美術科』色彩のシンフォニー

フェアトレードコーヒーを販売

文化部展示

各部の普段の活動を垣間見ることができる充実した展示が行われました。

華道部では「ウェディング」をテーマに、テーブルセッティングやブーケを作成。乙女心全開で臨みました。

★天文部★書道部★華道部★写真部★美術部★イラスト部が出展

卓越した書道の作品と

京都・奈良の和歌を英語で

美術科の美しい作品

体験

科学部によるスライム・バスボム作りには、実験好きの子どもたちが参集。

スポーツ科学コースでは、トレーニング機器を備えて来校者に対応。思わぬパワーを発揮する子どももいて、笑顔溢れるラボとなりました。

茶道部では、着物姿の部員がお茶とお菓子でおもてなし。美しい琴の調べの中で、来校者は抹茶を堪能しました。

毎月、学園紙に「tomoちゃん」の原稿を寄せてくれるCIP部も、来校者に缶バッジの作り方を指導しました。

制服試着室では、憧れの制服に身を包んだ児童が、満面の笑みで写真に収まりました。その姿を家族がにこやかに見守りました。

★SSH教育センター＝工学院・学大実験コーナー★スポーツ科学コース＝医療・トレーニングの両面から選手を支えるスポーツラボ★心理学同好会＝心理テスト★科学部＝スライム、バスボム作り★茶道部★CIP部＝漫画・グッズ販売、缶バッジ制作★受験生案内＝制服試着と写真撮影★2梅＝リケジョの縁日

「ウェディング」をイメージした華道部の作品

トレーニングラボを楽しむ子どもたち

大繁盛のリケジョの縁日

カラーガード部の堂々たる演技

部活実演

校庭やホール、音楽室などでは時間差で各部活による実演が行われました。仲間を応援する生徒の声が飛び交う中、息の合った演技が披露されました。

工夫をこらした各部の発表に、沢山の観客が惜しみない拍手を贈りました。

★放送部（アニメアフレコ）★カラーガード部★チアダンス部★ダンス部★新体操部★サッカー部★演劇部★吹奏楽部★オリジナルアンサンブル部★合唱部★軽音楽部★ギター部が実演

息の合ったオリジナルアンサンブル

模擬店（高2・部活動・同好会）

2階の模擬店エリアでは、からあげ、ワッフル、ポテトなど美味しそうな匂いが漂い、大繁盛でした。

★楓★檜★桜★藤★萩★彩★ソフトテニス部★ラクロス部★硬式テニス部★ソフトボール部★バスケットボール部★調理部×紅茶同好会が出展

模擬店エリアは大繁盛

大学 「Kawagoe Wayfindingプロジェクト」

8月29日、川越市 仲町観光案内所において、本学とロンドン芸術大学（以下UAL）の学生が「Kawagoe Wayfindingプロジェクト」成果報告会を行いました。

同プロジェクトは、本学とUALの2017年教育連携プログラムの一環で、小江戸川越に外国人観光客を誘致し、川越を世界に発信することで「世界のKawagoe」を目指す活動です。UALから6名、本学からは52名の学生が参加し、7月下旬から8月中旬にかけて川越の調査を実施し、地元の方々のインタビューを行いました。それにより、川越の歴史を学び、イマジネーションを高めた学生たちは、川越の名産であるさつまいもから「Kawagoe」の書体を考案。さらに、街で見つけたオブジェや動物を墨と筆で描いたうちわ、地図、公共のベンチ・案内板のモデルなどを作成しました。これらは、高齢者への配慮、人に優しい道案内を目指す評価システムを核とする本学教員による包括的教育プログラムも含んでいます。

制作物を前に笑顔のUAL生と本学学生

街中で台湾からの観光客にインタビュー

報告会では、川合善明川越市長や本学関係者、マスコミを前に、島田昌和理事長・教授が挨拶の中で同プロジェクトに至った背景について話しました。続いて、人間学部の小林剛史心理学科長・教授が同プロジェクトについて説明。川合市長からは「外国人観光客をもてなす参考にしたい」と期待の言葉をいただきました。発表では、UAL生が活動のプロセスを次々とプレゼンし、会場から大きな拍手が贈られました。最後に、松村和子副学長・教授が両学生を労い、謝辞を述べました。

終了後、留学生たちはこれまでの取り組みについて外国人観光客と意見を交わすために街中へ繰り出し、台湾から来た二人組にインタビュー。実際に同案内所に二人を招き、制作物を前に熱心に意見交換をしました。

外国語学部からの参加学生は、「普段から外国人との交流はありますが、アートを通じてのコミュニケーションは初めてだったので、学ぶことが沢山ありました」、人間学部からの参加学生は「みんなが参加した地図作成が一番楽しかった！　1本の道を表現するにも色々な見方があることを知り、大いに今後の参考になりました」と充実感を滲ませました。

UAL生は「この5週間、多くの方々と関わりながらデザインを完成しました。発表はとても緊張したけれど、自分たちが取り組んできたことがある程度の形になって良かった！　川越の観光産業がさらに発展することを願います」と笑顔で話しました。

UAL生のアートの感性・技術と、本学学生の「心理学・福祉学・社会学・語学」が調和し、多様な価値観が融合した同プロジェクトは、今後も継続されていきます。

大学 「グリーンツーリズム」ふじみ野高校生徒が初参加

熱い想いを伝える品川郡山市長（左）の話を聞く参加者

緑を満喫して笑顔の参加者たち

郡山市内を巡り、緑を満喫しながら農業体験などをする「グリーンツーリズム」が8月19・20日に行われ、人間学部・中山智晴ゼミの学生10名、教員・OB3名、ふじみ野高校の生徒14名の計27名が参加しました。

中山ゼミの学生たちは、福島県の農業再生を目指して、平成17年から同活動を継続。その中で、経営学部・馬渡一浩ゼミの学生との協働により、郡山市熱海町の菅野ぶどう園や猪苗代町のワイナリーと連携し、「文京ワイン」を製造してきました。これを、ふじみ野市と郡山市の交流事業のシンボルとした新たな地域ブランドへ育成することを目指して活動する中で、ふじみ野市のふるさと納税返礼品として指定されました。

今回のグリーンツーリズムは「郡山逢瀬ふじみ野net文京スマイル」の企画によるもの。これは、今年3月に人間学部コミュニケーション社会学科を卒業後、逢瀬町に移住した中潟亮兵さんが代表を務める地域おこし団体の交流事業です。高校生初参加の今回は、次の2つのテーマによる活動を行いました。

1「生産地ー消費地の交流を通じた地域間交流の将来を考える」

★菅野ぶどう園見学と作業体験

★逢瀬町の農家が運営する農作物販売所「ポケットファーム」の見学

★逢瀬町の自然体験「なんだべ村」訪問

2「地域間交流の将来を考えるワークショップ」

初日には、品川萬里郡山市長が同市高齢者文化休養センター逢瀬荘を訪れ、今後の高齢化社会での若者への期待や、郡山市の魅力について熱く語りました。

同ツーリズム代表の島村純平さん（コミュニケーション社会学科4年）は、次のように想いを語りました。「高校生も、ぶどう園で雑草を抜いたり、ビザ釜を使ったピザ作りなどを体験して楽しそうでした。次回も来たいと言う生徒も多く、うれしく思いました。僕は、この活動に2年次から参加していますが、まだまだ福島原発事故による風評被害は残っていると感じています。これからも、活動を通じて実感した福島の魅力を、多くの方々に伝えていきたいと考えています」

大学 CLATTERSが25周年を祝う

タッチフットボールの「CLATTERS」（部長＝人間学部人間福祉学科3年・柴田結衣さん、顧問＝保健医療技術学部理学療法学科・中俣修准教授）が創部25周年を迎え、その記念総会が8月26日、ふじみ野キャンパスで開かれました。

当日は、同部の池田優希さん（人間福祉学科3年）と山口実さん（平成24年・理学療法学科卒業）の司会で、まずは同窓会監事長の山崎益美さん（平成8年・経営学部卒業）が開会の挨拶。黒田恭司コーチの想いを受けて、仲間と同会の準備に奔走したプロセスについて話しました。

乾杯の挨拶は、同部顧問を10年務めた櫻澤仁経営学部教授。続いて、元コーチの塚本純司さんがお祝いの言葉を述べ、元トレーナーの飯塚直人さんが、当時のメンバーの熱い想いについて語りました。須田美咲さん（平成10年・経営学部卒業）が挨拶の中で、「それぞれの代が努力してきたから今がある」と仲間を労いました。

過去から現在までの同部の映像を流した後、歴代メンバーが挨拶。当時のエピソードや想い出に触れると、会場には笑顔が溢れました。最後に、慶應義塾大学でアメフトに勤しみ、平成6年からCLATTERSと関わる黒田コーチが、次のように想いを語りました。

「強豪との初戦は0対52と大敗して、下級生が大泣き。強化練習により、各強豪を破って6試合全勝。最終日に勝ては、東西王座出場権獲得というところまで到達しましたが1本差で破れ、また下級生の大泣きを見ることに。平成7年に櫻澤先生が顧問に就任されてからは、同好会であったCLATTERSの体育会への昇格と、チーム環境整備に奔走してくださいました。その後、私の後輩の塚本さんらを招聘し、『基礎からのチーム作り』を実践。平成18・19年には東西一座決定戦出場を果たしたことを機に、翌年コーチを勇退。その後、コーチなしの試合で全敗したことから、半年後に復帰。平成23年には関東大会を制覇し、あと二歩で日本一というところまで成長しました。現在は『学業優先』で活動し、アカデミックな部活となっています。

将来の五輪を見据えて、女子のプレー人口を増やす一貫で、関東学生連盟のアプローチにより、学生女子タッチフットボール連盟とのコラボ企画が徐々に進展。五輪のフィールドに、文京学院の卒業生が参加することを期待し、CLATTERSが今後も歴史を重ねていくことを祈念します」

山崎監事長は「当初、7名でスタートして徐々に部員が増えましたが、私たちの代は3名のみ。部活を存続させることを第一に願い、部員勧誘に力を入れました。25周年を祝うことができて、本当にうれしく思います」と笑顔。

柴田部長は「私が生まれる前から存在するCLATTERS。沢山の先輩とお会いして、歴史の重みを感じています。全国大会を目指して頑張ります！」と決意を新たにしました。

CLATTERSで結ばれた絆は深く

文京ギャラリー 中高 文女祭

写真提供＝スタジオ・ノトナミ

高校 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）先端科学講座「科学知の技法」を学ぶ

文部科学省から都内女子校初のSSHの認定を受けた本校では、日々、校内外の専門家による指導が展開されています。生徒たちは科学・数学分野の知識を次々と吸収し、能力を高めています。

大学教育への接続と課題研究の動機付けを念頭に、毎年夏休み期間を利用して、連携大学や研究機関の協力を得ながら先端科学講座「科学知の技法」を実施しています。今年もそれぞれ2日間4種類の講座から選択をして、高校1年理数キャリアコースの生徒75名が参加しました。

8月19日は、東邦大学理学部の佐藤浩之教授による遺伝子解析実験講座でした。生徒自身の口腔粘膜の上皮細胞から遺伝子を抽出し、筋肉の質が遺伝的に短距離向きか長距離向きかを左右する遺伝子を解析する実験です。2日目の27日は、順天堂大学医学部附属順天堂医院の認定遺伝カウンセラーである田村智英子先生による遺伝医学と生命倫理講座。「出生前診断」を題材に、妊娠、出産の裏に潜む、染色体異常や子どもの障害に対する不安、検査によって出生前にいろいろな病気がわかるとしたらというロールプレイ方式で遺伝カウンセリングを体験しました。究極の個人情報である遺伝子とその形質を知ることに対する様々な側面・問題点についての理解を深めました。

佐藤准教授から分析化学を学ぶ生徒たち

8月25・26日は、日本女子大学理学部の佐藤香枝准教授による分析化学講座。日本女子大学の実験施設を訪問し、市販のドリンク剤や鉄鍋で湧かしたお湯などの水溶液中における微量元素の含有量を、原子吸光光度計、紫外・可視分光光度計を用いて探りました。この原理は分析化学実験の課題研究では必須の内容です。2日目は、生徒各自の課題研究のゼミ活動で、仮説の立て方から実験での検証の仕方など、課題研究を進める上で様々な助言をいただきました。

8月28・29日は、医療分野のソフト・ハードを開発している株式会社レキシー社の清徳省雄先生によるMRIでさぐる・生きた人体のかたち講座。医療機関でも使われている高精度MRIやCTで採取した人体の画像データをシミュレーションソフトで処理、骨格や臓器のつくりと仕組みを解析しました。また、9月2日には株式会社レキシー社を訪問し、実際に人体データを超高精細3Dプリンタで出力する様子を見学しました。

8月30・31日は、文京学院大学保健医療技術学部の樋口桂教授による比較解剖で理解する脊椎動物のからだ講座。固定済みブタの標本を肉眼解剖学的手法で系統的に解剖して、臓器の配置やつながりを確認しながら解剖を進め、形態から見た脊椎動物のからだの基本構造とその役割とは何かを探りました。

生徒たちはそれぞれの講座の受講前と受講後で、学んだ内容やその意義について質問に答え、考えを文章化してコンピュータに記録させるe-ポートフォリオを実施しました。

どの講座も大変興味深い内容で、複数講座に積極的に参加する生徒もいました。これらの活動を通して、先端科学に対する知識や理解を深め、将来の女性科学者としてのキャリアに繋げていくことが期待されています。

大学 ブレーメンズが「あんどん祭り」に出展

8月14日、岐阜県中津川市苗木で「苗木あんどん祭り」が開催され、本学の「ブレーメンズ」が出展。ブレーメンズオリジナルグッズの販売を実施しました。同祭りは、同市立苗木小学校のグラウンド中央にステージを組み、その上に苗木城をかたどった櫓を設置、周辺にはロウソクを燈したあんどん約200個を配置して、あんどんが幻想的に会場を照らすのが魅力です。

大盛況のブレーメンズのブース

「ブレーメンズ」は「東日本大震災復興支援」を目的に、本学コンテンツ多言語知財化センターが立ち上げたチャリティプロジェクトで、これまで学生がデザインしたチャリティグッズの総売り上げ203万7241円を、「いわての学び希望基金」「東日本大震災みやぎこども育英基金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」「子どもの村東北」「熊本地震義援金」の5件に寄付。

夜景に映える「サラサドウダン」の装飾

祭りの夜には、学生が制作した市の花「サラサドウダン」の装飾がブレーメンズブースをライトアップ。会場に灯る地域のあんどんと共に、苗木の夏の夜を飾りました。

大学 「子ども大学ふじみの」今年も大盛況！

小学生の知的好奇心を呼び起こす機会を提供する「子ども大学ふじみの」が今年で5回目を迎え、ふじみ野市の小学校4年生から6年生の児童が、次の日程で学びました。主催は同実行委員会（本学、一般社団法人東入間青年会議所、ふじみ野市）。

★7月1日 手話で楽しく「生き方学」

明日香さん（右）と梶原教授（中央）

柄田准教授の楽しい授業

コミュニケーション 音でからだほぐし・手話うた（女優・明日香さん、人間学部・梶原隆之教授・渡辺行野同助教）

「ふるさと学」

★7月15日【実習】東いるまん（中華まん）を作ろう【講義】僕たち私たちのまち～ふじみ野～

藤谷教授の授業に興味津々

「はてな学」

★8月5日「まなびとあそびのキャンパス」に参加しよう！（人間学部・柄田毅准教授）

★8月19日 のぞいてみよう！ショッピングセンターのお仕事

★9月9日 お水の汚染を調べよう（保健医療技術学部・藤谷克己教授）

なお、最終日には、人間学部の木村浩則学部長・教授が見守る中、高畑博ふじみ野市長が子どもたち一人ひとりに修了証書を授与。全5回の楽しい授業を通じて子どもたちの成長が垣間見られました。

高畑ふじみ野市長が修了証書を授与

大学 理学療法学科学生「日野原重明カップ」をサポート

「第13回日野原重明カップスローピッチソフトボール大会」（公益財団法人日本健康スポーツ連盟・公益財団法人大田区体育協会・一般社団法人全日本健康スローピッチソフトボール連盟共催）が9月9・10日、大田スタジアムと大井スポーツ公園で行われました。これは「健康、生きがい、仲間づくり」を目的として、60歳以上、68歳以上、75歳以上の世代ごとにチームを編成して熱戦を繰り広げる大会です。

名称の由来である聖路加国際病院名誉院長・日野原重明先生が、7月18日に105歳で逝去したことから、今回は追悼試合として26チームが参加。プロ野球OBの八木澤荘六さん、高橋直樹さん、松岡弘さんとの交流もあり、選手の励みになりました。2日目のフレンドシップ戦では、同大会主管のメイジャ・マクレ大田（60歳以上）が優勝！　2日間を通じて、今年も本学理学療法学科の学生延べ10名が選手のコンディショニングを担当し、大会をサポートしました。

同学科学生によるトレーナーサークルSPOLEC部長の高浜晴生さん（3年）は、次のように話しました。

「2日目に、より多くの選手がコンディショニングを受けに来てくださり、お陰で優勝できたよとうれしい言葉をかけてくださいました。実際の現場に学生のうちから出て、コンディショニングを行うということはとてもいい経験だと思います。このような貴重な機会を与えてくださった福井勉教授、日野原カップの選手の皆さん、役員の方々にとても感謝しています」

選手のコンディショニングを行う理学療法学科の学生たち（写真提供＝株式会社ディア）